

TruPhase の活用(20)  
—音源の位相確認(20)—

1. はじめに

TruPhase の位相反転機能を利用して音源の位相確認を行っていますが、前報(19)に引き続き CD の位相確認を行います。

2. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認計画

前報(8)と同様、前報(1)と同じ経路で CD の位相確認を行いつつ、バッハの CD を聴いていきます。

CD ドライブ→fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→TruPhase  
→300B シングルアンプ

試聴した CD 音源は、バッハの作品で下記のとおりです。

ARCHIVE UCGA 7006

J.S.Bach 管弦楽組曲 1 番・2 番

カール・リヒター指揮ミュンヘンバッハオーケストラ

BERLIN CLASSICS 030061BC

J.S.Bach 管弦楽組曲

コンチェルトケルン

日本コロムビア COCO-78023

J.S.Bach 管弦楽組曲 1 番・2 番

ヘルムート・ヴィンシャーマン指揮ドイツバッハゾリステン

3. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認結果

上記 CD について、Brooklyn DAC+での位相反転と TruPhase での位相反転の結果が同じになるかどうか焦点です。

音量調整を容易にするため、Brooklyn DAC+では位相反転させず、TruPhase で位相反転させた状態で TruPhase のヴォリュームを固定し、TruPhase での位相反転では、Brooklyn DAC+でのヴォリュームでの調整だけにしました。

そして、Brooklyn DAC+では位相反転させないで、TruPhase での位相反転有り無しで聴いていきます。

カール・リヒター指揮ミュンヘンバッハオーケストラ盤は、位相反転させますと、定位がしっかりして音の焦点が合い、古いアナログマスターからリマスターした CD ですが、演奏の確かさが分ります。

コンチェルトケルン盤は、位相反転させますと、定位が曖昧で演奏が散漫になります。位相反転させないと定位がしっかりして個々の楽器の音がクリアーになります。ヘルムート・ヴィンシャーマン指揮ドイツバッハゾリステン盤は、位相反転させますと、定位がしっかりして音の焦点が合い、古いアナログマスターからリマスターしたCDですが、生き生きとした演奏が楽しめます。位相反転させないと定位が曖昧で音が散漫になります。

#### 4. まとめ

ミュンヘンバッハオーケストラ盤とドイツバッハゾリステン盤は逆相、コンチェルトケルン盤は、正相であることが分りました。

以上